

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局 街路交通施設課、道路局有料道路課
 担当課長名：松井 直人、森 昌文

事業名	地域高規格道路 新若戸道路 都市計画道路 響灘戸畑線		事業区分	街路	事業主体	北九州市 (北九州道路公社)
起終点	自：北九州市若松区北浜一丁目 至：北九州市戸畑区新池三丁目				延長	2.3km
事業概要	本路線は、若戸大橋の渋滞緩和及び広域幹線道路へのアクセス強化を図り、響灘地区の交通需要の増加への対応、リダンダンシー確保を目的とした道路である。					
H12年度事業化	H11年度都市計画決定 (H12年度変更)	H12年度用地着手	H13年度工事着手			
全体事業費	1000億円	事業進捗率	92%	供用済延長	0km	
計画交通量	34,800台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.3 (残事業) 14.6	総費用 (残事業)/ (事業全体) 97/1078億円 (事業費：92/1073億円 維持管理費：5.0/5.0億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 1420/1420億円 (走行時間短縮便益：1267/1267億円 走行費用減少便益：102/102億円 交通事故減少便益：51/51億円)	基準年 平成21年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量(±10%)：13.2～16.1 事業費(±10%)：13.4～16.2 事業期間(±20%)：13.8～15.4					
事業の効果等	新若戸道路は、北九州市のみならず北部九州さらには西日本全体に対しても産業育成、物流コスト削減等の効果を有するものとなる。また、若松市街地等の地域に対しても小倉方面へのアクセス改善、広域交通網への接続、地域交通混雑の回避等の効果を得るものである。さらに、若戸大橋の維持補修等の工事や交通事故等による通行止めなどの不測の事態が生じた場合の迂回路となり、若戸断面の経路多重化を図ることができる。					
関係する地方公共団体等の意見	本路線の新若戸道路の供用によって、若戸大橋周辺道路の交通渋滞緩和が見込まれるため、地元住民や周辺企業から早期供用開始を強く要望されている。					
事業評価監視委員会等の意見	事業を継続することが妥当である。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	若戸大橋の交通量は約52,000台/平日であり、朝夕の通勤時間帯においては慢性的な交通渋滞が発生している。さらに響灘地区における企業立地(ブリヂストン、アジア特殊製鋼など)が進むなかで、さらなる交通量の増加が予測される状況であるため、一日も早い供用開始が望まれている。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成21年度末の事業進捗率は、事業費ベースで約92%である。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	今後も、港湾整備事業及び有料道路事業と調整を行いながら早期供用開始を目指す。					
施設の構造や工法の変更等	特に無し					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の事業の効果、進捗状況、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。